（別添5）

事業所名　グループホーム　ゲンジョウ

作成日：　平成　22年　　2月　25日

2　目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	周りに家がなく孤立した場所に施設があるため、近隣の住民の方との交流はほとんどできていない。また、ボランティアの方の訪問も少ない。	施設所在地の自治会と交流を深める。 ボランティアの方の訪問を多くし、継続的な訪問ができるように働きかける。	①自治会との信頼関係を構築するために、自治会での話し合い等に定期的に参加する。 ②他の事業所からボランティアの紹介をしてもらうなどの働きかけを行う。	10ヶ月
2	20	馴染みの人や場所を十分に把握できていないため、馴染みの関係が継続できていない。	施設へ入居しても家族以外の馴染みの人や場所等の関係が継続できるように支援して行く。	①本人または家族に馴染みの人や場所を聞きだし、記録に残し職員全員で情報の共有を図る。 ②馴染みの関係が継続していくにはどう支援していけばいいか、話し合いを行い実行へと移行する。 ③具体的には行きつけだった店などに行ったり、手紙や電話のやりとりができるようにする。	12ヶ月
3	23	思いや意向に対して職員各個人で把握している内容が異なっており、職員全体での利用者の思いや意向への統一した把握が乏しい。	日々の関わりの中で、利用者の思いや意向を職員全体で把握し、実現へと繋げて行く。	①利用者が発した言葉や行動の中から思いや意向などを探りながら関わる。 ②ケアカンファレンス時などで利用者が望んでいる事を出し合い、実現に向けての明確な話合いを行い記録に残し全体で把握できるようにする。	8ヶ月
4	36	プライバシーへの配慮等が状況によりできていないことがあり、職員全体での確認や研修が必要である。	自己決定をしやすい雰囲気・環境作りを継続し、プライバシーの確保への認識を高めて行く。	①倫理、プライバシー保護のマニュアルを作成し周知徹底を図る。 ②職場内での定期的な研修を行い、振り返りや確認を行う。	6ヶ月
5	1	職場全体での地域密着型の意義に関しての理解が乏しい。	職員全体で地域密着型サービスの意義を深く理解し、利用者が地域の一員として自分らしく生活できるよう支援して行く。	①職場会議等で地域密着型サービスの特徴や役割を管理者より説明し理解の啓発を行う。 ②理解を得たら地域密着型サービスに関しての理念の再度見直しを行う。 ③理念を掲げ利用者が地域の一員であることを実感できるよう支援を行う。	12ヶ月
6	8	職場全体での権利擁護に関する制度への理解が乏しい。	権利擁護に関する職員全体での理解を深め当てはまる事例があれば制度を活用できるように取り組んでいく。	①職場内での研修を行い制度の出来た背景や目的などを知り理解を深める。 ②権利擁護に関して当てはまる事例があれば、地域包括支援センターに相談し、助言・指導等を仰ぐ。	6ヶ月